

2 年 次

<表現力を培う>

◎英語ⅡA.....2- 1

◎英語ⅡB.....2- 13

<人体の身体機能と病態を理解する>

○生体防御学.....2- 25

○病態栄養学.....2- 31

◎薬物治療学.....2- 37

○微生物学.....2- 42

○病理学.....2- 48

●病態診断治療学.....2- 54

<看護の基本となる科目>

○看護技術とアセスメントⅡ.....2- 60

●看護技術とアセスメントⅢ.....2- 65

○看護倫理学.....2- 71

○疫学.....2- 76

●保健情報演習.....2- 83

◎基礎看護学実習Ⅱ.....2- 89

<看護実践を支える科目>

○母性看護学Ⅰ.....2- 96

○地域看護学Ⅰ.....2-103

○地域看護学Ⅱ.....2-110

○成人看護学Ⅰ.....2-117

○成人看護学Ⅱ.....2-124

●小児看護学Ⅰ.....2-130

●老年看護学Ⅰ.....2-136

○精神看護学Ⅰ.....2-142

●公衆衛生看護学Ⅰ.....2-149

<看護の実践>

●地域看護学実習.....2-156

◎通年科目 ○前期科目 ●後期科目

区 分 名： 表現力を培う
科 目 名： 英語Ⅱ 前期Aグループ
(英語名称： EnglishⅡ)

【担当教員】 田中 明夫

【開講年次】 2年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 演習 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間

【概要】

看護・医療の分野で用いられる英語を理解し、使えるようになるために必要な基礎的英語技能を養います。看護・医療に関するニュース等を教材として用い、リスニング、シャドーイング、リーディングと必要な語彙と表現の整理と習得が授業の中心になります。

【学習目標】

- 1) 看護や医療に関するニュースを聞き、要旨を聞き取ることができる。
- 2) 看護や医療で用いられる基本的表現や語彙を正確に理解することができる。
- 3) 看護や医療に関して書かれた英文を正確に読み取ることができる。
- 4) 看護や医療で用いられる語彙を正しく発音することができる。
- 5) 英文を正しいイントネーション、ストレス、ピッチで発音することができる。

【テキスト】

第1回目の授業で指示します。

【参考書】

『ウィズダム英和辞典』三省堂

『ジーニアス英和辞典』大修館書店

『リーダーズ英和辞典』研究社

Longman Dictionary of Contemporary English LONGMAN

Oxford Advanced Learner's Dictionary Oxford University Press

【成績評価方法】

小テスト、期末試験及び授業への参加度・貢献度を総合して評価します。

【その他（メッセージ等）】

初めて目にする語彙や表現が多く、事前に自分で調べなければならない事項が多くなると思います。必ず予習をして、積極的に授業に取り組んでください。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	シャドーイングの基礎	シャドーイング
第2回	看護・医療に関するニュース（1）	リスニング、シャドーイング、リーディング
第3回	看護・医療に関するニュース（2）	リスニング、シャドーイング、リーディング
第4回	看護・医療に関するニュース（3）	リスニング、シャドーイング、リーディング
第5回	看護・医療に関するニュース（4）	リスニング、シャドーイング、リーディング
第6回	看護・医療に関するニュース（5）	リスニング、シャドーイング、リーディング
第7回	看護・医療に関するニュース（6）	リスニング、シャドーイング、リーディング
第8回	看護・医療に関するニュース（7）	リスニング、シャドーイング、リーディング
第9回	看護・医療に関するニュース（8）	リスニング、シャドーイング、リーディング
第10回	看護・医療に関するニュース（9）	リスニング、シャドーイング、リーディング
第11回	看護・医療に関するニュース（10）	リスニング、シャドーイング、リーディング
第12回	看護・医療に関するニュース（11）	リスニング、シャドーイング、リーディング
第13回	看護・医療に関するニュース（12）	リスニング、シャドーイング、リーディング
第14回	看護・医療に関するニュース（13）	リスニング、シャドーイング、リーディング
第15回	看護・医療に関するニュース（14）	まとめ

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		

		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会があるが、単位

		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		認定に関係ない
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島で起こった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 表現力を培う
科 目 名： 英語Ⅱ 後期Aグループ
(英語名称： EnglishⅡ)

【担当教員】 中山 仁

【開講年次】 2年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 演習 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間(後期15時間)

【概要】

医療英語に関する記事などを読んで、看護・医療の分野で使われる英語の語彙や表現について学ぶ。授業では、(1)医療に関連する語彙・表現を覚える演習、(2)ニュースなどのリスニング・リーディングを通して、内容理解に必要な文法や構文を理解するための演習を行う。また、(3)英文の内容を通して、最近の医療事情について理解を深める。

【学習目標】

- 1) 基本的な医学用語を正しく発音し、その意味が理解できる。
- 2) 習得した医学用語に基づいて、派生語や類義語の発音・意味を理解できる。
- 3) 医療英語に関する記事のキーワードを読み取ることができる。
- 4) 英語の文法と文章構成のパターンに基づいて、英文を正確に読み取ることができる。
- 5) 問題意識を持って英文を読むことができる。

【テキスト】

教室で指示する。

【参考書】

- 1) 『ウィズダム英和辞典』(三省堂)、『ジーニアス英和辞典』(大修館)
- 2) 語句の説明と用例が充実した辞書アプリ(iOS版):ウィズダム英和・和英辞典(第4版/第3版)(物書堂)
- 3) 一般語でより豊富な語彙を求める場合:『リーダーズ英和辞典』(研究社)
- 4) 専門用語の理解のために:『ステッドマン医学大辞典』(メジカルビュー社)

【成績評価方法】

演習点、定期試験および授業の準備状況、授業への参加度・貢献度等を総合して評

価する。

【その他（メッセージ等）】

読む英文の量が増え、専門性が高くなります。しっかりと準備をして授業に臨んで下さい。医学用語の独特の発音とともにたくさんの語を覚え、英語を通して医療の知識や関心がさらに高まることを期待しています。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	医療・看護に関する記事（1）	リスニング・リーディング・発音練習
第2回	医療・看護に関する記事（2）	リスニング・リーディング・発音練習
第3回	医療・看護に関する記事（3）	リスニング・リーディング・発音練習
第4回	医療・看護に関する記事（4）	リスニング・リーディング・発音練習
第5回	医療・看護に関する記事（5）	リスニング・リーディング・発音練習
第6回	医療・看護に関する記事（6）	リスニング・リーディング・発音練習
第7回	医療・看護に関する記事（7）	リスニング・リーディング・発音練習
第8回	医療・看護に関する記事（8）	リスニング・リーディング・発音練習
第9回	医療・看護に関する記事（9）	リスニング・リーディング・発音練習
第10回	医療・看護に関する記事（10）	リスニング・リーディング・発音練習
第11回	医療・看護に関する記事（11）	リスニング・リーディング・発音練習
第12回	医療・看護に関する記事（12）	リスニング・リーディング・発音練習
第13回	医療・看護に関する記事（13）	リスニング・リーディング・発音練習
第14回	医療・看護に関する記事（14）	リスニング・リーディング・発音練習
第15回	医療・看護に関する記事（15）	まとめ

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		

2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。 (2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリス		

			コミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 表現力を培う
科 目 名： 英語Ⅱ 前期Bグループ
(英語名称： EnglishⅡ)

【担当教員】 中山 仁

【開講年次】 2年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 演習 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間(前期15時間)

【概要】

医療英語に関する記事などを読んで、看護・医療の分野で使われる英語の語彙や表現について学ぶ。授業では、(1)医療に関連する語彙・表現を覚える演習、(2)ニュースなどのリスニング・リーディングを通して、内容理解に必要な文法や構文を理解するための演習を行う。また、(3)英文の内容を通して、最近の医療事情について理解を深める。

【学習目標】

- 1) 基本的な医学用語を正しく発音し、その意味が理解できる。
- 2) 習得した医学用語に基づいて、派生語や類義語の発音・意味を理解できる。
- 3) 医療英語に関する記事のキーワードを読み取ることができる。
- 4) 英語の文法と文章構成のパターンに基づいて、英文を正確に読み取ることができる。
- 5) 問題意識を持って英文を読むことができる。

【テキスト】

教室で指示する。

【参考書】

- 1) 『ウィズダム英和辞典』(三省堂)、『ジーニアス英和辞典』(大修館)
- 2) 語句の説明と用例が充実した辞書アプリ(iOS版):ウィズダム英和・和英辞典(第4版/第3版)(物書堂)
- 3) 一般語でより豊富な語彙を求める場合:『リーダーズ英和辞典』(研究社)
- 4) 専門用語の理解のために:『ステッドマン医学大辞典』(メジカルビュー社)

【成績評価方法】

演習点、定期試験および授業の準備状況、授業への参加度・貢献度等を総合して評

価する。

【その他（メッセージ等）】

読む英文の量が増え、専門性が高くなります。しっかりと準備をして授業に臨んで下さい。医学用語の独特の発音とともにたくさんの語を覚え、英語を通して医療の知識や関心がさらに高まることを期待しています。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	医療・看護に関する記事（1）	リスニング・リーディング・発音練習
第2回	医療・看護に関する記事（2）	リスニング・リーディング・発音練習
第3回	医療・看護に関する記事（3）	リスニング・リーディング・発音練習
第4回	医療・看護に関する記事（4）	リスニング・リーディング・発音練習
第5回	医療・看護に関する記事（5）	リスニング・リーディング・発音練習
第6回	医療・看護に関する記事（6）	リスニング・リーディング・発音練習
第7回	医療・看護に関する記事（7）	リスニング・リーディング・発音練習
第8回	医療・看護に関する記事（8）	リスニング・リーディング・発音練習
第9回	医療・看護に関する記事（9）	リスニング・リーディング・発音練習
第10回	医療・看護に関する記事（10）	リスニング・リーディング・発音練習
第11回	医療・看護に関する記事（11）	リスニング・リーディング・発音練習
第12回	医療・看護に関する記事（12）	リスニング・リーディング・発音練習
第13回	医療・看護に関する記事（13）	リスニング・リーディング・発音練習
第14回	医療・看護に関する記事（14）	リスニング・リーディング・発音練習
第15回	医療・看護に関する記事（15）	まとめ

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/ 礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		

2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。 (2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリス		

			コミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 表現力を培う
科 目 名： 英語Ⅱ 後期Bグループ
(英語名称： EnglishⅡ)

【担当教員】 桑田 カツ子

【開講年次】 2年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 演習 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間(後期15時間)

【概要】

最近の医療に関する英語のニュースや新聞記事を、リスニングとリーディングを通して内容を正確に理解する力を養う。授業では、(1)ニュースや新聞記事等、まとまった英文の内容理解に必要な基礎的英語技能(語彙・文法・構文等)を養う。(2)リスニングで得た情報をリーディングで再確認する演習を行う。また、(3)長文の内容を理解しながら、最近の医療事情について知識を深め、考える姿勢を養う。

又、2コマ授業の時は看護師にとって必要と思われる基礎的な英会話にも触れる。

【学習目標】

- 1) 基本的な医学用語を正しく発音し、その意味が理解できる。
- 2) 英語の文法と構文に基づいて、長文を正確に読み取ることができる。
- 3) 医療英語に関する記事のキーワードを読み取ることができる。
- 4) 医療関連ニュースを聞いて、おおまかな内容理解ができる。
- 5) 問題意識を持って英文を読むことができる。

【テキスト】

「指定しない」 担当教員が準備する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価方法】

語彙小テスト、期末試験及び授業への参加度を総合して評価する。

【その他(メッセージ等)】

語彙小テストを数回行いますので復習が大切です。教材は医療に関する話題が多い

ので、身近に感じながら英語を学んで欲しいと思います。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	ガイダンス	科目のねらいと到達目標の明確化
第2回	医療に関するニュース（1）	リスニング・リーディング
第3回	医療に関するニュース（2）	リスニング・リーディング
第4回	医療に関するニュース（3）	リスニング・リーディング
第5回	医療に関するニュース（4）	リスニング・リーディング
第6回	医療に関するニュース（5）	リスニング・リーディング
第7回	医療に関するニュース（6）	リスニング・リーディング
第8回	医療に関する記事（7）	リーディング
第9回	医療に関する記事（7）	リーディング
第10回	医療に関する記事（8）	リーディング
第11回	医療に関する記事（8）	リーディング
第12回	医療に関する記事（9）	リーディング
第13回	医療に関する記事（9）	リーディング
第14回	医療に関するニュース・記事	まとめ
第15回	医療に関するニュース・記事	まとめ

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	－	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		

		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	－	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		

		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示

		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	せることが単位認定の要件である
--	--	---	-------------------------------------	-----------------

区 分 名： 人間の身体機能と病態を理解する

科 目 名： 生体防御学

(英語名称： Immunology)

【担当教員】 <免疫> 関亦 明子、森 努

<放射線> 織内 昇(先端臨床研究センター)、広藤 喜章(保健科学部)、
佐藤 良信(附属病院)、伊藤 浩(医学部)、鈴木 義行(医学部)

【開講年次】 2年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

放射線、病原体や外来異物によって引き起こされる生体反応とそれに対する基本的な防御の仕組みについて理解する。

【学習目標】

- ① 免疫系の基本的な構造と機能を理解できる。
- ② 免疫系の破綻によって引き起こされる疾患について理解できる。
- ③ 放射線の基礎と健康影響について理解できる。
- ④ 放射線による診断や治療についての基本的な知識を身につける。

【テキスト】

<免疫> 病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 (医療情報科学研究所)

<放射線> 必要に応じて講義の中で指示する。

【参考書】

<免疫>

標準免疫学 (医学書院)

シンプル免疫学 (南江堂)

もっとよくわかる！免疫学 (羊土社)

エッセンシャル免疫学 (メディカル・サイエンス・インターナショナル)

Janeway's 免疫生物学 (南江堂)

<放射線>

必要に応じて講義の中で紹介する。

【成績評価方法】

客観式試験によって 60 点以上を合格とする。

【その他（メッセージ等）】

自己と非自己を見分ける免疫系の仕組みは複雑なようですが、分かるととても面白く、生命の神秘を感じる科目のひとつです。また、放射線を用いた診断や治療については医療従事者に必須の知識です。本科目は診療科を超えた病気や看護専門の学習の基盤です。自分で興味を持ったことについては、試験のためだけでなく、調べて勉強してみてください。それが生涯役に立つ知識を身につける一番いい方法です。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第 1 回	免疫学概論	免疫システムの概要、自然免疫
第 2 回	獲得免疫(1)	液性免疫、B 細胞
第 3 回	獲得免疫(2)	細胞性免疫、T 細胞
第 4 回	腫瘍免疫	がん免疫、免疫治療
第 5 回	移植免疫	同種抗原反応、免疫抑制剤
第 6 回	アレルギー疾患	免疫寛容、アレルギーの発生機序
第 7 回	適応免疫応答と宿主防衛反応 I-A	自然免疫、補体系
第 8 回	適応免疫応答と宿主防衛反応 I-B	液性免疫
第 9 回	適応免疫応答と宿主防衛反応 II	細胞性免疫
第 10 回	適応免疫応答と宿主防衛反応 II	免疫不全、ワクチン
第 11 回	放射線の影響と診療(1)	放射線の基礎
第 12 回	放射線の影響と診療(2)	放射線の健康影響
第 13 回	放射線の影響と診療(3)	放射線画像診断
第 14 回	放射線の影響と診療(4)	放射線治療
第 15 回	放射線の影響と診療(5)	核医学、診断と治療

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム	科目達成レベル
1. プロフェッショナル	
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。	

1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		

		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探究し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		

		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 人間の身体機能と病態を理解する

科 目 名： 病態栄養学

(英語名称： Clinical nutrition)

【担当教員】 関亦 明子

【開講年次】 2年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

栄養の意義を理解し、成長や生命維持に必要な各種栄養素の種類と代謝について学習する。栄養素の不足や過剰摂取によって引き起こされやすい病気、食事によって改善が可能な病態についても理解する。

【学習目標】

- ① 成長や生命維持活動に関与する各種栄養素の種類と代謝について説明できる。
- ② ライフステージによる栄養状態の変化と食事・栄養管理について理解できる。
- ③ 栄養と疾病の関連について理解できる。

【テキスト】

専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能3 (医学書院)

専門基礎分野 生化学 人体の構造と機能2 (医学書院)

【参考書】

レーニンジャーの新生化学 (上) (下) (廣川書店)

【成績評価方法】

客観式試験によって60点以上を合格とする。

【その他 (メッセージ等)】

食べるということは身体を作ることであり、外から取り入れる以外に体を構成する材料を得る方法はありません。体を作ったり生命を維持したりするために必要な栄養、代謝について理解し、専門看護学や病態・治療学を学ぶための基盤にしてください。

また、自分で興味をもったことについては、試験のためだけでなく、調べて勉強してみてください。それが生涯役に立つ知識を身につける一番いい方法です。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	病態栄養学総論	細胞と生体の構成成分、栄養学と看護
第2回	栄養素の種類とはたらき	なぜ食事が必要なのか
第3回	食物の消化と吸収1	消化器系の仕組みとはたらき
第4回	食物の消化と吸収2	血漿成分と栄養素
第5回	エネルギー代謝	食品のエネルギー、エネルギー代謝
第6回	糖質の代謝と病態栄養学	血糖調節とインスリン、糖質代謝異常症
第7回	脂質の代謝と病態栄養学	脂質の代謝と関係する疾患
第8回	タンパク質の代謝と病態栄養学1	タンパク質の一生
第9回	タンパク質の代謝と病態栄養学2	タンパク質の代謝と関係する疾患
第10回	ポルフィリンの代謝と病態栄養学	ポルフィリンとは、ポルフィリンの代謝
第11回	ビタミン、無機質と病態栄養学	ビタミン、無機質の役割と関係する疾患
第12回	核酸の代謝と病態栄養学1	核酸とは、DNA 修復と疾患
第13回	核酸の代謝と病態栄養学2	核酸の代謝と関係する疾患
第14回	ライフステージと栄養	日本人の食生活、ライフステージ
第15回	臨床における栄養	栄養状態の評価、食事と治療

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		

		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでの コミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		

7. 看護学発展への貢献				
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。				
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	● 基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	

区 分 名： 人間の身体機能と病態を理解する

科 目 名： 薬物治療学

(英語名称： Pharmacotherapy)

【担当教員】 森 努

【開講年次】 2年次 【学 期】 通年 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間

【概要】

薬剤が生体に作用する機序と、様々な治療効果および副作用について学習することで、効果のアセスメントや有害事象の予防・早期発見ができ、患者と家族に分かり易く説明できるように、薬物治療の基礎知識を習得する。

【学習目標】

薬物療法を実施するにあたって必要な、薬物の基礎知識を学ぶ。

【テキスト】

医学書院「薬理学」(系統看護学講座・専門基礎分野)

【参考書】

医学書院「標準薬理学」(標準医学シリーズ)

【成績評価方法】

定期試験で60点以上を合格とする。

【その他(メッセージ等)】

医療現場で用いる薬剤は、多面的な作用をもたらします。それらを予め理解しておくことが、治療効果と安全性を確保するために必要です。他科目の資料も参照しながら学習を進めて下さい。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容(キーワード等)
第1回	薬理学総論(1)	薬物とは、関係法規、薬物療法、チーム医療
第2回	薬理学総論(2)	誤薬防止、有害作用の発見・予防、服薬指導

第3回	薬理学総論（3）	作用機序、受容体、薬物動態、投与経路、相互作用
第4回	薬理学総論（4）	個人差、副作用、耐性と依存、麻薬取締法、治験
第5回	感染症治療薬（1）	作用機序、抗菌薬、抗結核薬、抗真菌薬
第6回	感染症治療薬（2）	抗ウイルス薬、薬物耐性、院内感染、易感染性
第7回	抗がん薬（1）	抗がん薬の作用・耐性・有害作用、細胞障害性薬剤
第8回	抗がん薬（2）	分子標的薬、モノクローナル抗体、がん性疼痛
第9回	免疫治療薬（1）	免疫抑制薬、免疫増強薬、能動免疫と受動免疫
第10回	免疫治療薬（2）	予防接種薬、ワクチン、抗毒素
第11回	抗アレルギー薬（1）	アレルギー反応の分類、抗ヒスタミン薬
第12回	抗アレルギー薬（2）	ケミカルメディエーター、抗アレルギー薬
第13回	抗炎症、鎮痛薬（1）	非ステロイド性抗炎症薬、副腎皮質ステロイド薬
第14回	抗炎症、鎮痛薬（2）	関節リウマチ治療薬、痛風治療薬
第15回	末梢神経作用薬（1）	自律神経系、神経伝達物質、神経系作用薬の作用点
第16回	末梢神経作用薬（2）	アドレナリン作動薬、抗アドレナリン薬
第17回	末梢神経作用薬（3）	コリン作動薬、抗コリン薬
第18回	末梢神経作用薬（4）	筋弛緩薬、局所麻酔薬
第19回	中枢神経作用薬（1）	中枢神経系、神経伝達物質
第20回	中枢神経作用薬（2）	全身麻酔薬、吸入麻酔薬、静脈内麻酔薬
第21回	中枢神経作用薬（3）	催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬
第22回	中枢神経作用薬（4）	パーキンソン病治療薬、抗てんかん薬、 麻薬性鎮痛薬、片頭痛治療薬
第23回	循環器疾患治療薬（1）	降圧薬、狭心症治療薬
第24回	循環器疾患治療薬（2）	心不全治療薬、抗不整脈薬
第25回	循環器疾患治療薬（3）	利尿薬、脂質異常症治療薬
第26回	血液系疾患治療薬	凝固・線溶系作用薬、貧血治療薬、血液腫瘍治療薬
第27回	呼吸器系、消化器系、 生殖器系疾患治療薬	呼吸器疾患治療薬、消化性潰瘍治療薬、制吐薬、 下剤・止痢剤、泌尿器・生殖器に作用する薬物
第28回	代謝内分泌疾患治療薬	糖尿病治療薬、甲状腺疾患治療薬、ビタミン
第29回	皮膚科用薬・眼科用薬	皮膚科・眼科で用いられる薬剤
第30回	救急時の薬剤、漢方薬	救急時に用いられる薬剤、おもな漢方薬

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	－	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	－	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	－	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	関係諸法・制度を理解し遵守できることが単位認定の要件である。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	△	修得の機会があるが単位認

	もつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		定に 関係 ない。
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	△	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会があるが単位認定に 関係 ない。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 人間の身体機能と病態を理解する

科 目 名： 微生物学

(英語名称： Microbiology)

【担当教員】 石岡 賢、実習（石岡 賢、宮崎 希）

【開講年次】 2年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義、実習 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 16時間

【概要】

看護の現場には多数の感染症患者がおり、患者からの感染を防ぎながら看護する知識や技術は必須である。また、高度な医療を受けている患者の多くは免疫能が低下しており、我々が持つ常在菌ですら死に至る感染症を起こすため、清潔な看護が要求される。微生物学では感染症がどのように起こるのかを学び、看護の実践の基礎となる感染制御の理論を学ぶ。

【学習目標】

- 1) 感染症の感染経路を概説し、感染経路別の予防策を説明できる。
- 2) 滅菌と消毒の方法を理解し、病院での滅菌・消毒を実践できる。
- 3) 予防接種の種類と接種の法的な区分を説明できる。
- 4) 主要な感染症の原因微生物と感染経路、疾患を説明できる。

【テキスト】

感染制御の基本がわかる微生物学・免疫学（増澤俊幸 著）羊土堂

【参考書】

標準微生物学（監修：神谷 茂、編集：錫谷達夫、松本哲哉）医学書院

【成績評価方法】

試験の点数、実習の出席と態度、レポート点を総合的に判定する。

【その他（メッセージ等）】

以下の授業内容の表に教科書のページ数を記入しました。

教科書は図が多く、読みやすいものを選びました。また、講義の前に講義で使用する資料をネット上にアップロードしますので各自ダウンロードして講義に臨み、講義

内で理解を深められるようにしましょう。

新型コロナウイルス感染症の流行を見て、医療の現場でいかに感染対策を取らなくてはならないのかは報道等で皆さんも見聞きしているところです。医療人として感染制御についての知識を身に着けることは必須です。自身の安全と患者さんを守るため、しっかり勉強しましょう。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	微生物学総論	細菌とは、真菌とは、ウイルスとは（第2章、p22-41）
第2回	微生物学総論	感染とは何か、感染経路（第3章、p43-50）
第3回	微生物学総論	免疫とワクチン（第4・5章、p53-80）
第4回	微生物学総論	滅菌と消毒（第5章、p80-95）
第5回	細菌学各論	化膿の原因菌（黄色ブドウ球菌、化膿連鎖球菌）
第6回	細菌学各論	肺炎を起こす菌（肺炎球菌、インフルエンザ菌、レジオネラ菌、結核菌）
第7回	細菌学各論	腸炎を起こす菌（大腸菌、カンピロバクター、腸炎ビブリオ、サルモネラ、ピロリ菌）
第8回	細菌学各論	尿路感染症、性感染症を起こす菌（大腸菌、淋菌、梅毒スピロヘータ）
第9回	ウイルス学各論	ワクチンで予防しているウイルス性疾患
第10回	ウイルス学各論	呼吸器・消化管疾患を起こすウイルス
第11回	ウイルス学各論	ヘルペスウイルス、レトロウイルス
第12回	ウイルス学各論	肝炎ウイルス
第13回	実習	消毒薬を使った正しい手洗い、手にいる菌の培養
第14回 ～第16回	実習	手にいる菌の観察

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	-	

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/ 礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	-	
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	

	とのコミュニケーション	②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	-	
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)		①	社会の理解を深める科目	●	

	創造性豊かな看護専門職者	②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	●	
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 人間の身体機能と病態を理解する

科 目 名： 病理学

(英語名称： Pathology)

【担当教員】 関亦 明子、太田 昌一郎、橋本 優子 (医学部)、
喜古 雄一郎 (医学部)、高橋 一人 (保健科学部)

【開講年次】 2年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義、実習 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間

【概要】

疾患発生機序の分子的、組織的背景と、疾患や外部刺激に対する人体の反応を理解する。

【学習目標】

- ① 正常な細胞の営みや組織構造について説明できる。
- ② 病理変化とは何かを理解できる。
- ③ 基本的な病態の特徴を理解できる。

【テキスト】

シンプル病理学 (南江堂)

【参考書】

講義の中で適宜紹介する。

【成績評価方法】

客観式試験によって 60 点以上を合格とする。

【その他 (メッセージ等)】

担当の先生がそれぞれ専門に近い分野の講義をするため、教科書に書いてあることだけではない興味深い話を聞けることでしょう。自分で興味をもったことについては、試験のためだけでなく、調べて勉強してみてください。それが生涯役に立つ知識を身につける一番いい方法です。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1-2回	細胞傷害と細胞増殖	オルガネラ、シグナル伝達、細胞周期、アポトーシス
第3-4回	組織細胞の修復と再生	創傷治癒、再生、炎症
第5-6回	腫瘍、老化	発がん機序、悪性腫瘍と良性腫瘍、老化とは
第7-8回	遺伝と先天異常	遺伝子と遺伝、染色体異常、遺伝病
第9-10回	退行性変化と進行性変化	萎縮、変性、壊死、アポトーシス、個体死
第11-12回	循環障害	出血、虚血、凝固異常、浮腫、腔水症、心不全
第13-14回	代謝障害	糖原病、脂質代謝異常、糖尿病、アミロイドーシス
第15-16回	各論1	神経系、頭頸部、感覚器
第17-18回	各論2	循環器、脈管系
第19-20回	各論3	消化器、運動器
第21-22回	各論4	骨盤内臓器、内分泌
第23-26回	各論5	血液、婦人科
第27-30回	臨床検査	病理標本の作製、細胞診

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/ 礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)		①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	

	チームでのコミュニケーション	②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		修得の機会はあるが、単位認定ではない
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会はあるが、単位認定ではない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践	①	看護実践の応用となる科目	●	基盤となる知識を示せるこ

	能力を備えた看護専門職者	②	看護の実践		とが単位認定の要件である。
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。		
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探究し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					

1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 人間の身体機能と病態を理解する

科 目 名： 病態診断治療学

(英語名称： Pathophysiology, including diagnosis and treatment)

【担当教員】 太田 昌一郎

【開講年次】 2年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 3単位 【時 間 数】 45時間

【概要】

循環器系、消化器系、代謝内分泌系、腎泌尿器系などの臓器や組織における病態と診断、治療、予後などを学習し、それぞれの疾患の特性を理解する。治療については、薬物療法、外科的治療、緩和ケアにも言及する。基礎医学と看護専門科目への橋渡しとなるような内容に心がける。

【学習目標】

血液・造血管疾患、消化器疾患、代謝疾患、内分泌疾患、循環器疾患、腎・泌尿器疾患、免疫アレルギー疾患、呼吸器疾患、感染症、神経系疾患の代表的な疾患について、

- 1) 主要症状と兆候を列挙し、その病態を説明できる
- 2) 主な診断方法と治療法を説明できる
- 3) 各疾患の予後を理解し、看護の関わり方を理解説明できる

【テキスト】

特に用いない予定であるが、各種コンテンツ、教員作成資料を使用する。

【参考書】

- 1) 加園恵三著 症例人間病態論 京都廣川書店
- 2) 加園恵三、太田昌一郎共著 症例人間病態論 Vol.2 京都廣川書店

【成績評価方法】

期末筆記試験に出席を加味する。理解度を確認するため、小テストを随時施行することがある。

【その他（メッセージ等）】

本講義と試験で病態に関する内容については国家試験および臨床で役立つ内容に焦点を置いた話題を中心とし、近年の国家試験で取り上げられた項目や臨床に纏わるトピックスについては、随時講義内で触れる。予告の上、授業内容は変更することがある。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	病態を学ぶ前に 主な検査値の読み方	オリエンテーション、疾患の概念、診断学の概念について 血液検査、貧血の診断、炎症性疾患、主な生化学検査の項目について
第2回	血液・造血器疾患	血液検査、貧血の診断、炎症性疾患、主な生化学検査の項目について、血液悪性疾患、線溶凝固異常、など
第3回	呼吸器疾患	検査法、閉塞性・拘束性肺疾患、呼吸器感染症 肺腫瘍、気管支喘息、胸膜疾患など
第4回	循環器疾患(1)	基礎的事項、心不全、不整脈、先天性心疾患
第5回	循環器疾患(2)	弁膜症、虚血性心疾患、心筋疾患、心膜疾患、血圧異常、脈管疾患、ショック
第6回	消化器疾患	分類、主な症候、上部消化管良性疾患、悪性腫瘍、特発性炎症性大腸炎、下部消化管悪性腫瘍など
第7回	肝臓・胆道・膵臓疾患	主な症候、肝炎の原因と病態、肝硬変、肝細胞がん、劇症肝炎、肝臓疾患続き、薬物療法、肝移植 胆石症、急性膵炎、慢性膵炎、膵臓がん、など
第8回	腎・泌尿器疾患	腎炎の分類、ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、慢性腎不全、急性腎不全、泌尿器科疾患、良性疾患、悪性腫瘍、排泄ケアなど など
第9回	代謝・栄養疾患	生活習慣病とは、肥満、糖尿病、骨粗鬆症、痛風、腫瘍崩壊症候群など
第10回	内分泌疾患	視床・下垂体系、下垂体・性腺系、ネガティブフィードバックなど調整機構、甲状腺疾患、二次性高血圧、カルシウム代謝異常など
第11回	感染症	法規、予防、治療薬 HIV 感染症、ウイルス感染症、原虫・寄生虫疾患、真菌感染症、クラミジア、リケッチアなど
第12回	膠原病、アレルギー疾患	薬剤アレルギー、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、蕁麻疹、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多

		発性筋炎など
第13回	精神・神経疾患	うつ病、統合失調症、薬物依存症、認知症、パーキンソン病、てんかんなど
第14回	脳血管障害、移植医療	脳梗塞、脳出血、各種治療、臓器移植、骨髄移植など
第15回	緩和ケア	痛みの生理学、オピオイドの使い方、WHO ラダー、ホスピスなど

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会はあるが単位の認定には関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会はあるが単位の認定には関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		

4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会はあるが単位の認定には関係ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づい	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが単位認

	た看護の実 践	②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		定には関係ない
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探究し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
		6. 地域社会への貢献			
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが単位認定には関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	－	修得の機会はない

		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが単位認定には関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 看護の基本となる科目

科 目 名： 看護技術とアセスメントⅡ

(英語名称： Nursing skills and assessmentⅡ)

【担当教員】 丸山 育子、川島 理恵、林 紋美、蓬田 美保 他

【開講年次】 2年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 演習 【単 位 数】 3単位 【時 間 数】 45時間

【概要】

本科目は、「看護技術とアセスメントⅠ」の学習を基に、学びを積みあげていきます。生命を維持し、自立した生活を送るうえで欠かせない「呼吸・循環・体温」の意義やアセスメントについて、そして、日常生活において重要な、「活動・栄養・排泄」の支援、さらに、検査、治療、入院という特殊な状況に置かれる対象の感染を含めた安全や安楽を守るための支援について学びます。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

【学習目標】

- 1) 医療における感染予防の必要性を理解することができる。
- 2) 感染予防のための基礎的看護技術を獲得できる。
- 3) 「活動、栄養、排泄」について看護者が支援する必要性を理解できる。
- 4) 「活動、栄養、排泄」をアセスメントするための基礎的知識を理解できる。
- 5) 「活動、栄養、排泄」に関する基礎的看護技術を獲得できる。
- 6) 血圧・脈拍・呼吸・体温の恒常性を保つしくみを理解することができる。
- 7) 血圧・脈拍・呼吸・体温の正常と異常をアセスメントするための基礎的知識を理解できる。
- 8) 血圧・脈拍・呼吸・体温を観察することができる。
- 9) 血圧・脈拍・呼吸・体温の一連を観察し、その結果の意味をアセスメントできる。
- 10) 検査や治療を受ける対象の状況を理解し、看護師の役割を考えることができる。

【テキスト】

テキストの指定はありません。

【参考書】

配布資料に記載します。

【成績評価方法】

評価配分は、筆記試験(45%)、実技試験(45%)、授業への取り組み(10%)を基本としますが、最終的に担当教員間で検討し総合的に評価します。

【その他（メッセージ等）】

看護は人の生活を援助することによって、その方の健康を整えていくことです。適切な援助をするためには、身体の構造と機能を知ることが必要であり、援助方法の根拠を理解した上で実施する力を持つ必要があります。1年次に学んだ内容を復習しながら学習を進めてください。

単元の順序は、状況に応じて変更になることがあります。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1～3回	感染予防①	医療における感染予防の意義と方法 衛生学的手洗い、滅菌手袋の装着
第4～6回	感染予防②	無菌操作の考え方、鑷子による綿球の受け渡し
第7～9回	検査を受ける対象への援助	治療における検査の意義と対象の心理 事例を用いたグループワーク
第10回	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメントとは 体表解剖
第11～13回	排泄①	自然排泄をおこなうことができない対象の排泄 の援助、持続的導尿の管理
第14～16回	排泄②	間歇的導尿の目的と方法、モデルを用いての間 歇的導尿の実際
第17～19回	栄養①	経口摂取を行うことができない対象の栄養摂 取、経管栄養
第20～22回	栄養②	栄養評価、栄養評価のグループワーク
第23～25回	呼吸・循環・体温①	体温のしくみとアセスメント、電法、体温測定
第26～28回	呼吸・循環・体温②	呼吸状態の観察(視診・触診・打診)
第29～34回	呼吸・循環・体温③	循環状態の観察（脈拍・血圧の測定）
第35回	活動 その2①	廃用症候群、褥瘡
第36～38回	活動 その2②	ベッド上から椅子への移動、ポジショニング
第39回	運動 その2	人が動いたり、姿勢を保つ時の神経の働き

		運動麻痺の方の援助／運動調節障害とその観察
第 40～41 回	運動 その 2	人が動いたり、姿勢を保つ時の神経の働き 運動麻痺の方の援助／運動調節障害とその観察
第 42～45 回	呼吸・循環・体温⑤	一連のバイタルサインの測定とアセスメント

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	－	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 看護の基本となる科目

科 目 名： 看護技術とアセスメントⅢ

(英語名称： Nursing skills and assessmentⅢ)

【担当教員】 丸山 育子、林 紋美、川島 理恵、蓬田 美保、渡邊 美恵子 他

【開講年次】 2年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 演習 【単 位 数】 3単位 【時 間 数】 45時間

【概要】

本科目は、「看護技術とアセスメントⅠ」および「看護技術とアセスメントⅡ」での学習が基盤となり、構成されています。学習する単元は検査、脳神経、循環器、呼吸障害、薬物療法、救命救急で、内容はより専門的なものとなります。これらの単元では、主に診療の補助技術に関する学習や、フィジカルイクザミネーションを用いて身体内部の推察に関する学習を行っていきます。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目です。

【学習目標】

- 1) 脳神経の障害が人間の生活に与える影響について説明することができる。
- 2) 脳神経に関するフィジカルイクザミネーションの基本を実践することができる。
- 3) 呼吸器に関するフィジカルイクザミネーションの基本を実践することができる。
- 4) 呼吸障害のある方の呼吸を整えるための基本的な技術を実践することができる。
- 5) 循環器に関するフィジカルイクザミネーションの基本を実践することができる。
- 6) 看護師が実施する静脈血採血の範囲を踏まえ、基本的な技術を実践することができる。
- 7) 薬物療法を受ける方に関わる看護師の役割について説明することができる。
- 8) 看護師が実施する注射法の範囲を踏まえ、基本的な技術を実践することができる。
- 9) 意識レベルのアセスメントの基本を実践することができる。
- 10) 一時救命処置の基本を実践することができる。

【テキスト】

指定はありません。

【参考書】

配布資料に記載します。

【成績評価方法】

評価配分は、筆記試験(45%)、実技試験(45%)、授業への取り組み(10%)を基本としますが、最終的に担当教員間で検討して総合して評価します。

【その他（メッセージ等）】

本科目は、主に診療の補助に関する技術について学んでいきます。看護者が診療の補助を行う意味や意義について皆さんそれぞれが考え、将来的にそれらを看護技術として、体現してくれることを期待しています。

【授業内容(学習項目)】

*授業の詳細は初回にお伝えします。また、単元の順序は、状況に応じて変更となることもあります。

回数	項目	内容（キーワード等）
第1・2回	呼吸その2	呼吸運動 呼気介助
第3・4回	呼吸その2	酸素化 換気障害 呼吸運動 呼気介助
第5回	呼吸その2	酸素療法 呼吸のアセスメントと看護
第6・7回	呼吸その2	呼吸音 酸素ボンベの取り扱い
第8・9回	呼吸その2	呼吸のアセスメントと看護
第10～12回	呼吸その2	ネブライザー 気道内吸引
第13回	検査	静脈血採血①
第14・15回	検査	静脈血採血①
第16回	検査	静脈血採血②
第17・18回	検査	静脈血採血②
第19・20回	薬物	薬物療法を受ける対象に関わる看護者の役割 経口薬を内服する対象に対する看護者の役割
第21・22回	薬物	アンプル吸い上げ
第23回	薬物	注射法
第24・25回	薬物	注射法(注射法の特徴と注射薬の準備) 注射法(皮下注射と筋肉内注射)
第26回	薬物	静脈内注射の実施と管理
第27～29回	脳神経	物をみる(第2・3・4・6脳神経)
第30・31回	薬物	静脈内注射の実施と管理の実際

第 32～34 回	脳神経	顔や口腔・鼻腔の感覚 表情をつくる(第 5・7 脳神経)
第 35・36 回	救命救急	救命の連鎖
第 37～39 回	脳神経	食べる(第 9・10・12 脳神経)
第 40・41 回	救命救急	胸骨圧迫の基本など
第 42～45 回	循環その 2	問診、視診、心音、事例展開

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の条件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の条件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の条件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の条件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルなどを示せることが単位認定の条件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係はない
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探究し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定には関係はない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 看護の基本となる科目

科 目 名： 看護倫理学

(英語名称： Nursing ethics)

【担当教員】 川島 理恵、古橋 知子、渡邊 美恵子

【開講年次】 2年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

治療やケアの決定をめぐって、医療サービスを提供する側や受ける側、その周辺の関係者にはさまざまな問題や葛藤が生じる。このような状況に対する看護の提供者としての倫理的感受性を涵養することを目標とする。具体的な事例についての検討を通して、どのように支援することが当事者の納得に向かうのか、倫理的な判断について学習する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目である。

【学習目標】

- 1) 看護実践における倫理の重要性について説明できる。
- 2) 専門職の看護倫理綱領の意義と内容について説明できる。
- 3) 倫理的な問題解決のための方法について説明できる。
- 4) 看護専門職が持つべき倫理的感受性を高め、責務を迫及しようとする姿勢について理解できる。

【参考書】

宮坂道夫 著者代表 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院 他

【成績評価方法】

定期試験 50%、レポート（提出課題）・授業への参加態度 50%

【その他（メッセージ等）】

看護の専門性と倫理的課題についての理解を深め、専門職としての倫理的態度について学びましょう。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1・2回	オリエンテーション 看護倫理を学ぶ意義について 「看護職の倫理綱領」について	看護倫理とは 看護師が専門職として備えるべき要件 看護学生としての倫理 看護職の倫理綱領
第3・4回	守秘義務 第1回目 次週の事例の提示	倫理と法 プライバシー 個人情報 実習記録と個人情報 SNS
第5・6回	守秘義務 第2回目 事例の検討と発表	事例検討を通して守秘義務を果たすことの難しさに気づく
第7-9回	インフォームド・コンセントと患者の意思決定 事例の検討	患者の権利とインフォームド・コンセント 患者の意思決定における看護師の役割
第10・11回	看護場面における倫理的ジレンマ ジレンマ体験ワーク	倫理的ジレンマ 倫理的ジレンマの検討ツール 事実と価値
第12・13回	倫理的感受性 第1回 次週の事例の提示	倫理的感受性 価値観 価値の対立 倫理的問題への気づき
第14・15回	倫理的感受性 第2回 事例の検討と発表 まとめ	事例検討を通して倫理的感受性を理解する

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		的に示せることが単位認定の要件である。
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。		〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	習得の機会があるが、単位

	とのコミュニケーション	②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		認定に関係ない。
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	習得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)		①	社会の理解を深める科目	○	態度、習慣、価値観を模範的

	創造性豊かな看護専門職者	②	人間の理解を深める科目		に示せることが単位認定の要件である。
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	習得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		

区 分 名： 看護の基本となる科目

科 目 名： 疫学

(英語名称： Epidemiology)

【担当教員】 安部 猛、後藤 あや

【開講年次】 2年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間

【概要】

疫学の講義は、統計学（1年後期）および情報学演習（2年後期）とシリーズになっており、この3つの講義と演習を通して、エビデンスに基づく保健医療が提供できる知識と技術が身につくことを目指します。

エビデンスとは、日本語にすると「根拠」です。保健医療サービスは、その効果が科学的に明らかであるもの、つまりエビデンスが検証されたものを提供することが望まれます。ここでエビデンスとは、数値だけではなく、人々の声（文章）のデータも含みます。

疫学の講義では、統計学で学んだことを復習した上で、データを収集する調査デザインの特徴、交絡とバイアス、さらには論文に提示された結果を読み取るためのより発展的な知識を学びます。基礎的な机上の勉強と捉えられがちですが、疫学は非常に実用的であり、保健医療の実務で必ず使う実践技術です。

【学習目標】

一般目標

エビデンスに基づく保健医療が提供できるようになるために、データを収集、分析、提示、読み取るための知識と技術を身につける。

具体的目標

- 1) 疫学指標について説明できる。
- 2) 疫学デザイン（生態学的研究、横断研究、症例対照研究、コホート研究、介入研究、スクリーニング）の特徴について説明できる。
- 3) 交絡とバイアスについて説明できる。
- 4) 臨床疫学で得られたエビデンスを理解できる。
- 5) リスクの伝え方について説明できる。

【テキスト】

日本疫学会（監修）. はじめて学ぶやさしい疫学. 南江堂.

【参考書】

横川博英（監）、藤林和俊（著）. 看護研究をはじめるための統計と臨床疫学. 学研メディカル秀潤社.

【成績評価方法】

試験（70%）と出席・提出物（30%）により総合的に評価します。

【その他（メッセージ等）】

シリーズとしている3つの講義・演習どれにおいても、演習への積極的な参加を求めます。講義を聞くだけでなく、自分で考え、使うことで、知識と技術は定着します。

※特別講師（予定）：郡山千早（鹿児島大学）、横川博英（順天堂大学）、松井史郎（長崎大学）、川井巧（ふくしま木もれ日クリニック）

【授業内容(学習項目)】

※3時間分を1回とする。（計30時間）

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	統計学の復習、疫学指標、因果関係 演習：統計の復習問題、因果関係の推測	有病率、罹患率、相対危険、寄与危険
第2, 3回	記述疫学、生態学研究、横断研究 演習：事例研究やデータの読み取り	記述疫学、分析疫学、生態学的研究、横断研究、年齢調整、交絡
第4回	症例対照研究、コホート研究 演習：事例研究やデータの読み取り	症例対照研究、コホート研究、バイアス
第5回	介入研究、スクリーニング 演習：事例研究やデータの読み取り	無作為割り付け、マスキング、感度、特異度、陽性反応的中率、信頼性、妥当性
第6, 7回	臨床疫学の基本と事例 演習：得られたエビデンスの理解と実践	臨床疫学、EBM、食中毒事例疫学調査
第8回	疫学論文を読む 演習：課題論文の読み取り	
第9回	県民健康調査の事例からリスクを伝える実際を学ぶ	コミュニケーション
第10回	総復習	

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	講義に組み込まれているグループ演習に班員で協力して取り組む態度を評価する。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	●	EBM/EBNに必要な知識を身に付けることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	グループ演習を通じて修得の機会があるが、単位認定に関係ない。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	◎	論理的思考能力としてデー

	もつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		データを収集・分析・解釈する知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	健康に関するデータを収集・分析・解釈する知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	健康に関するデータを収集・分析・解釈する知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。 (2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	—	修得の機会がない。
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島で起こった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	●	災害時における科学的データの伝え方について、基礎的知識を身に付けることが単位認定の要件である。
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		

7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	健康に関するデータを収集・分析・解釈する知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 看護の基本となる科目

科 目 名： 保健情報演習

(英語名称： Biostatistics Lab)

【担当教員】 安部 猛

【開講年次】 2年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 演習 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間

【概要】

情報学の演習は、統計学（1年後期）および疫学（2年前期）とシリーズになっており、この3つの講義と演習を通して、エビデンスに基づく保健医療が提供できる知識と技術が身につくことを目指します。

エビデンスとは、日本語にすると「根拠」です。保健医療サービスは、その効果が科学的に明らかであるもの、つまりエビデンスが検証されたものを提供することが望まれます。

保健情報の演習では、実際にクラス内で質問紙調査を行い、データを入力、分析、結果をまとめて発表し、さらには発表した結果が聞き手にどのように受け止められるかまで確認します。

【学習目標】

一般目標

エビデンスに基づく保健医療が提供できるようになるために、データを収集、解析、提示、読み取るための基礎的な技術を身につける。

具体的目標

- 1) ヘルスリテラシーについて概説できる。
- 2) 質問紙が作成できる。
- 3) データ入力ができる。
- 4) クロス集計に基づく解析ができる。
- 5) 連続変数における二群間比較ができる。
- 6) 目的に応じた図表が作成できる。
- 7) 抄録、ポスターを作成できる。
- 8) 効果的な発表ができる。

【テキスト】

※配布資料を中心に演習を進めます。

【参考書】

清水優菜，山本 光．JASP で今すぐはじめる統計解析入門．講談社．
縣 俊彦．やさしい保健統計学 改訂第5版増補．南江堂．

【成績評価方法】

演習への取り組み（70%）と出席・提出物（30%）で総合的に評価します。講義時間内で終わらなかった作業は、指定の日時まで提出してください。

【その他（メッセージ等）】

毎回、演習問題を中心に進めますので、学内ネットワークに接続可能な PC もしくはタブレットを持参してください。文書ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフト（例：Windows/Mac: Word, Excel, PowerPoint; Mac: Pages, Numbers, Keynote）を頻繁に使用します。端末に内蔵されていなくても追加購入は必要ありません。講義開始以降、説明いたします。

【授業内容(学習項目)】

※第1・2回：3時間分；第3～8回：4時間分（計30時間）

回数	項目	内容（キーワード等）
1回	演習の概要、文献検索演習	リテラシー、医学中央雑誌
2回	質問紙作成演習	仮説設定、項目設定
3回	質問紙回答、解析演習	クロス集計表、二群間比較
4回	解析（結果、考察）演習	解析結果、解釈
5回	抄録作成演習	IMRAD
6回	抄録改訂・ポスター作成演習	イラスト、著作権
7回	ポスター改訂	発表者ツール
8回	発表、まとめ	プレゼンテーション

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	講義に組み込まれているグループ演習に班員で協力して取り組む態度を評価する。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	データを扱う基礎的知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	グループ演習を通じて修得の機会があるが、単位認定
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		

		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		に 関 係 な い。
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	グ ル ー プ 演 習 を 通 じ て 修 得 の 機 会 が あ る が、 単 位 認 定 に 関 係 な い。
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修 得 の 機 会 が な い。
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	◎	健康に関するデータを収集・解析・解釈する知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない。
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない。
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	健康に関するデータを収集・解析・解釈する知識と技術を身に付けることが単位
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		

		③ 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。 ④ 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。 ⑤ 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。 ⑥ 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。 ⑦ 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。 ⑧ 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。	認定の要件である。
7. 看護学発展への貢献			
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。			
1)	科学的・論理的思考	① 看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。 ② 科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	◎ 健康に関するデータを収集・解析・解釈する知識と技術を身に付けることが単位認定の要件である。

区 分 名： 看護の基本となる科目

科 目 名： 基礎看護学実習Ⅱ

(英語名称： fundamental nursing clinical practicumⅡ)

【担当教員】 川島 理恵、黒田 るみ、丸山 育子、渡邊 美恵子、林 紋美、
蓬田 美保 他

【開講年次】 2年次 【学 期】 通年 【必修／選択】 必修

【授業形態】 実習 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 60時間

【概要】

本実習は、①(7月)と②(10月)の2段階で実習します。①は、健康上の問題を抱える方が生活している環境を理解する実習です。②は2週間にわたり行います。看護者として受け持ちの方を理解し、看護上の問題を見出し、看護計画を立案し、看護を実践します。看護を提供するために不可欠な看護過程のプロセスを踏み看護実践の基礎的な力を培う実習です。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

【学習目標】

- 1) 対象が生活する療養環境への理解を深める。
- 2) 健康上の問題をもつ対象の生活に着目した看護過程が展開できる能力を培う。
- 3) 看護の展開を通して、対象との関係性を大切にすることへの思いを深める。
- 4) 専門職として自律できる態度を身につける。

【テキスト】

指定しない。

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価方法】

当該実習総時間数の 5分の4以上出席しなければ単位認定を受けることができません。

実習評価は実習内容・実習態度・記録を統合して行います。評価配点は、実習中の言動40%、カンファレンス10%、実習記録30%、レポート20%です。実習指導者の

意見を参考に担当教員が評価し、複数で協議の上、最終的に科目責任者が判断します。
100点を満点として60点以上が合格となります。

【その他（メッセージ等）】

基礎看護学実習Ⅱ-①では、健康上の問題を抱えた対象者が生活している環境への関心を高め、対象者に沿った看護を提供していくことの必要性について考えます。

基礎看護学実習Ⅱ-②では、患者さんを受け持ち、患者さんとの関係性を形成しながら看護過程を展開します。アセスメント、看護上の問題点の抽出、看護計画の立案、実施、評価の実際を経験します。看護者が対象者を理解するとはどのようなことか、看護とは何かについて実践を通して考えてください。そして、対象との関係性を大切にすることへの思いを深めてほしいと思います。

実習は、自分自身の生活を見直すこと、報告、連絡、相談ができる姿勢も必要となります。日々の生活を整えて実習できる体制を作り、実習に臨んでください。

実習の詳細は実習オリエンテーションで説明します。また、状況に応じて実習方法の変更が生じた場合は、随時お知らせします。

【授業内容(学習項目)】

1. 基礎看護学実習Ⅱ-①：実習施設：福島県立医科大学附属病院

7月16日（水）に、実習オリエンテーションを予定しています。

7月28日（月）の午前

①前半は、看護部の方からの病院オリエンテーションがあります。

②後半は、検査部、薬剤部など、病院を構成する各部署を見学します。

7月29日（火）～31日（木）の午前 ＊いずれか1日

①4～5名で1グループを編成し、病棟で実習を行います。

②病棟で看護師のシャドーイングや患者さんとコミュニケーションを行います。

2. 基礎看護学実習Ⅱ-②：実習施設：4施設を予定

8月1日（金）に、実習オリエンテーションを予定しています。

9月30日（火）～10月10日（金） 前半グループの実習

10月14日（火）～10月24日（金） 後半グループの実習

＊前半および後半グループのいずれかでの実習となります。

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		

2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	-	修得の機会はない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	-	修得の機会はない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	-	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係はない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 看護実践を支える科目

科 目 名： 母性看護学Ⅰ

(英語名称： Maternity Nursing Ⅰ)

【担当教員】 山口 咲奈枝、石井 佳世子、大内 美奈、外部講師

【開講年次】 2年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間

【概要】

母性看護の基盤となる概念やリプロダクティブヘルス／ライツの理念を踏まえ、母性看護の対象を取り巻く社会の変遷やそれを支える関係法規を学習する。また、ライフステージ各期の女性の健康課題を通して、母性看護の役割と機能を学習する。

妊娠期・分娩期にある対象の心身の変化および胎児期の成長・発達を理解し、妊婦や家族への看護援助の実践について学習する。

助産師として実務経験のある教員が担当する科目である。

【学習目標】

1. 母性看護の概念、母子保健統計の動向、母子保健に関する法律や制度を説明できる。
2. リプロダクティブヘルスケアを説明できる。
3. ライフステージ各期の女性の健康課題とそれに対する看護を説明できる。
4. 妊娠経過に応じた対象の身体的、心理・社会的変化を説明できる。
5. 胎児の生理的变化、成長・発達を説明できる。
6. 分娩の機序ならびに分娩経過に応じた母体の心身の変化および分娩進行が胎児に及ぼす影響を説明できる。
7. 妊娠期・分娩期に必要な看護援助の方法を説明できる。
8. 妊娠期・分娩期の異常について説明できる。

【テキスト】

森恵美他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学①母性看護学概論，医学書院

森恵美他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学②母性看護学各論，医学書院

【参考書】

太田操編著：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第4版，医歯薬出版，2024.

【成績評価方法】

全講義数のうち3分の2以上出席した学生を対象に筆記試験を行う。

【その他（メッセージ等）】

「生」、「性」、生命の尊重を考えながら学習していきましょう。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	母性看護の基盤となる概念	母性とは、母子関係と家族発達、母性看護のあり方
第2～3回	母性看護の対象を取り巻く環境や社会の変遷	母子保健統計、関係法規、母性看護にかかわる施策
第4～6回	女性生殖器形態機能	性分化、性の多様性、生殖器の形態機能、性周期とホルモン動態
第7～10回	リプロダクティブヘルスケア	避妊、人工妊娠中絶、不妊治療、性感染症、出生前診断
第11～12回	ライフサイクル	ライフステージ各期の女性の健康課題と看護
第13～18回	マタニティサイクル： 妊娠期・分娩期	妊娠期・胎児期の看護
第19～24回		分娩期の看護
第25～27回		妊娠期・分娩期の異常
第28～30回		妊娠期・分娩期の看護

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	◎	看護実践の場で看護職者と

		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		しての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	◎	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	◎	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	◎	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					

1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		

2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探究し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		

		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示

		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。	せることが単位認定の要件である
--	--	---	-------------------------------------	-----------------

区 分 名： 看護実践を支える科目

科 目 名： 地域看護学Ⅰ

(英語名称： Community Health NursingⅠ)

【担当教員】 高橋 香子、難波 貴代、阿久 津和子

【開講年次】 2年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

この科目では、地域看護と関連のある考え方や概念、看護活動の基盤となるモデルや理論について学び、地域看護活動の目的、特徴、展開方法について包括的に学習する。また、病気の人から健康な人までの様々な健康水準の個人、集団、地域を対象とした行政、学校、産業、そして在宅の場における地域看護活動について学ぶ。

※保健師として実務経験がある教員が担当する科目である。

【学習目標】

- (一般)： 1) 地域看護の対象、目的、地域看護活動の基盤となる考え方について知る。
2) 行政、学校、産業、そして在宅などの地域を基盤とする地域看護活動について学ぶ。
3) 地域看護学領域で用いられる理論やモデルを知り、その活用方法について理解する。
- (行動)： 1) 地域看護の定義を説明できる。
2) 地域看護に関連する主要な概念について説明できる。
3) 地域看護学の対象を述べることができる。
4) 地域看護活動の場について列挙することができる。
5) 活動の場の特性に応じた地域看護活動について説明できる。
6) 地域看護活動における理論・モデルの有用性について説明できる。
7) 地域看護学の今後の課題について述べられる。

【テキスト】

荒賀直子・後閑容子編. 公衆衛生看護学 jp. インターメディカル. 最新版

【参考書】

授業の中で適宜指示する。

【成績評価方法】

出席および授業への参加態度（30%）、定期試験（70%）

【その他（メッセージ等）】

地域看護の対象が個人だけではなく、集団や一定の広がりのある地域全体だという点に特徴がありますので、社会に関する情報に関心を寄せながら授業に参加すると学びが深まります。

【授業内容(学習項目)】

回	項目	内容（キーワード等）
第1回	地域看護学とは何か	地域看護学、公衆衛生看護学
第2回	地域看護の主要な概念(1)	健康、生活と環境、公衆衛生、予防
第3回	地域看護の主要な概念(2)	プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、エンパワメント、アドボカシー
第4回	保健行動と保健活動（1）	保健行動に関する理論
第5回	保健行動と保健活動（2）	保健行動を支援する活動
第6回	保健医療福祉システム	衛生行政制度、社会保障制度
第7回	地域看護活動の理論・モデル(1)	コミュニティアズパートナーモデル
第8回	地域看護活動の理論・モデル(2)	プリシードプロシードモデル
第9回	地域看護活動の場と活動内容（1）	行政機関、職域、学校、在宅
第10回	地域看護活動の場と活動内容（2）	行政機関（市町村）における看護活動
第11回	地域看護活動の場と活動内容（3）	行政機関（保健所）における看護活動
第12回	地域看護活動の場と活動内容（4）	職域における看護活動（産業保健）
第13回	地域ケアシステム	目的、構築・展開方法
第14回	地域看護活動の場と活動内容（5）	学校における看護活動（学校保健）
第15回	地域看護活動の場と活動内容（6）	在宅における看護活動（訪問看護）

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	—	修得の機会がない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	—	修得の機会がない
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	—	修得の機会がない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	—	修得の機会がない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	—	修得の機会がない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	—	修得の機会がない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観を	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない

	もつ看護専門職者	②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	大間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		

		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探究し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。 (2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	●	基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					

看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 看護実践を支える科目

科 目 名： 地域看護学Ⅱ

(英語名称： Community Health NursingⅡ)

【担当教員】 高橋 香子、阿久津 和子、高崎 千聡

【開講年次】 2年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

地域で暮らす人々の、ライフステージに応じた健康課題（母子、成人、高齢者）とそれに応じた地域看護活動の実際について学ぶ。また、特定の健康課題を持つ対象者に対する地域での支援方法（障がい者支援、難病対策、感染症対策、精神保健福祉活動）について学習する。保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

【学習目標】

学習目標（一般）：

1. 各ライフステージの特徴と健康課題について理解することができる
2. 対象の発達段階の特性に応じた地域看護活動の実際について学ぶ
3. 対象の健康障がいの特性を理解し、それらに対する地域看護活動について理解することができる

学習目標（行動）：

1. 各ライフステージの特徴と健康課題について説明できる
2. 対象の発達段階の特性に応じた地域看護活動の実際について説明できる
3. 対象の健康障がいの特性を説明できる
4. 対象の健康障がいに応じた地域看護活動について説明できる

【テキスト】

荒賀直子・後閑容子編：公衆衛生看護学.jp インターメディカル 最新版

【参考書】

標美奈子：標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論 医学書院
中谷芳美他：標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護技術 医学書院

【成績評価方法】

出席および授業への参加態度（30%）、筆記試験（70%）

【その他（メッセージ等）】

地域で暮らす人々は、様々な年代、様々な健康レベルにあることを理解し、地域で行われている具体的な看護活動について学びましょう。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	地域で暮らす人々の健康生活を支える活動	ヘルスプロモーション、地域保健の活動基盤
第2回	地域で生活する母子の支援(1)	母子保健の動向、母子保健施策、母子保健における健康課題と支援、乳幼児期の発達、乳幼児健診
第3回	地域で生活する母子への支援(2)	妊娠期からの切れ目のない母子保健対策の実際
第4回	感染症対策と保健活動	感染症対策の動向、感染症予防と発生時の対応・支援
第5回	地域で生活する成人への支援(1)	成人保健の動向、成人保健施策、成人期の健康課題と支援
第6回	地域で生活する成人への支援(2)	地域での成人保健活動の実際（生活習慣病予防、健康診査と保健指導、職域保健との連携等）
第7回	地域で生活する高齢者の支援(1)	高齢者保健福祉の動向、高齢者保健福祉施策、高齢者の健康課題と支援
第8回	地域で生活する高齢者の支援(2)	地域での高齢者への保健活動の実際（介護予防活動、高齢者・家族のQOL）
第9回	地域における難病患者への支援	難病、療養上の課題、難病患者・家族支援、地域ケアシステム
第10回	障がい者(児)への支援(1)	障がい者保健医療福祉、精神保健医療福祉の動向
第11回	障がい者(児)への支援(2)	障がい者(児)支援、心の健康づくり
第12回	災害に対応した保健活動(1)	健康危機管理対策、災害保健活動
第13回	災害に対応した保健活動(2)	災害保健活動の実際、住民とともに歩む復興の道程
第14回	住民との協働による地域保健活動	住民との協働、主体性、地域づくり

第15回	まとめ	生涯にわたる健康支援
------	-----	------------

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	△	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	△	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		

		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	〃
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		

4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		

1)	豊かな感性 と倫理観を もつ看護専 門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会が ない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊か な看護専門 職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知 識を示せるこ とが単位認定 の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践を支える科目		
3)	ニーズに対 応する実践 能力を備え た看護専門 職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会が ない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護 を実践することができる。					
1)	人々のニー ズに基づい た看護の実 践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることがで きる。	●	実践の基盤と なる知識を示 せることが単 位認定の要件 である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		

		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。 (2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実態を理解し、説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	放射線災害の実態を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリス		

		コミュニケーションについて説明できる。	
--	--	----------------------------	--

区 分 名： 看護実践を支える科目

科 目 名： 成人看護学Ⅰ

(英語名称： Adult NursingⅠ)

【担当教員】 佐藤 菜保子

【開講年次】 2年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

成人期にある人々の特徴、発達課題や健康上のニーズ・健康問題を理解し、対象者の状況に応じた看護実践を行うための基本的知識および思考方法を学ぶ。当科目は、看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

【学習目標】

(一般目標)

成人期にある人々の特徴を理解するとともに、成人期の発達課題や健康上のニーズ・健康問題について理解し、各健康レベルに応じて看護実践のあり方や関連する保健医療福祉対策・システムについて理解する。また、成人看護学で学習する周術期・救急・クリティカルケア・慢性期・回復期・終末期にある人々へ看護を提供するために必要な思考能力を養う。

(行動目標)

- 1) 成人看護学とは何か、成人看護学の対象と特徴の概要を述べることができる。
- 2) 成人期にある人の特徴と役割について述べることができる。
- 3) 成人期である自分や身近な人々の生活・環境・健康問題の振り返りをとおり、成人期の特徴や健康に関する課題を明らかにすることができる。
- 4) 成人期にある人々の生活と健康やその諸問題に関する背景を社会的側面から理解し、自分の考えを述べることができる。
- 5) 成人看護学に活用できる理論について理解し、対象に合わせた活用ができる。

【テキスト】

安酸史子 編, ナーシンググラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 第5版, MC メディカ出版 2022.

厚生統計協会, 厚生指標 国民衛生の動向, 最新版.

【参考書】

開講時に提示する

【成績評価方法】

出席、課題、レポートにより総合的に判断する

課題、レポートの締め切りは以下のとおり、FMU パスポートに提出すること。

※形式等の詳細は授業内で指示します。

課題① 自身の健康な生活に向けた計画 4/22 9:00 締め切り

課題② 課題①を実施した評価と再計画 5/12 9:00 締め切り

課題③ 最終レポート 6/ 9 9:00 締め切り

【その他（メッセージ等）】

成人期を発達段階およびライフステージの側面からとらえ、成長・発達の課題と健康上の課題を理解し、成人看護について考えを深めましょう。グループワークでは積極的に意見交換して視野を広げましょう。受講前に授業内容に関する教科書や関連資料を読んでおくこと、授業後には関連文献などを自分で調べ理解を深めましょう。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第 1 回 (4/2)	成人看護学の理念	成人看護学の対象と特徴の概要を理解する
第 2 回 (4/2)	成人期にある人々の特徴	成人期にある人の生活と役割の特徴と健康との関連の概要を理解する
第 3 回 (4/16)	成人期にある人々の健康問題（1）	青年期の身体的・心理社会的特徴と健康問題と健康な生活に向けた目標
第 4 回 (4/16)	成人期にある人々の健康問題（2）	青年期の身体的・心理社会的特徴と健康問題と健康な生活に向けた目標 (課題提示①：自身の健康な生活に向けた計画)
第 5 回 (4/23)	成人期にある人々の健康問題（3）	壮年期・向老期の身体的・心理社会的特徴と健康問題と健康な生活に向けた目標
第 6 回 (4/23)	成人期にある人々の健康問題（4）	壮年期・向老期の身体的・心理社会的特徴と健康問題と健康な生活に向けた目標
第 7 回 (4/30)	成人期にある人々の健康問題（5）	成人期の健康増進を考える
第 8 回 (4/30)	成人期にある人々の健康問題（6）	成人期の健康増進を考える (課題提示②：課題①を実施した評価と再計画)

第 9 回 (5/7)	成人期にある人々の健康問題 (7)	生活習慣病の動向と対策
第 10 回 (5/7)	成人期にある人々の健康問題 (8)	生活習慣病の動向と対策
第 11 回 (5/14)	身体侵襲を受けた人への看護に必要な概念	クリティカルケア・周術期看護の特徴と看護援助に必要な概念および看護師の役割
第 12 回 (5/14)	慢性疾患を持つ人への看護に必要な概念	慢性疾患を持つ患者の理解と看護師の役割
第 13 回 (5/21)	成人看護学に活用できる理論の活用	看護理論を用いたアセスメントおよび保健指導への活用 (ストレス理論、危機理論、健康信念モデル、行動変容モデル、セルフケア理論、成人教育理論ほか)
第 14 回 (5/21)	成人看護学に活用できる理論の活用	看護理論を用いたアセスメントおよび保健指導への活用
第 15 回 (5/28)	成人看護学に活用できる理論の活用	看護理論を用いたアセスメントおよび保健指導への活用 (演習) (課題提示③: 最終レポート)

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/ 礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		

3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である。
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	同上
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		

2)	チームでの コミュニケー ーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護 の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会 はあるが、単位 認定に関係な い
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意 義と看護専門職者が果たす役割について 理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信 頼、誠実さを示し、看護専門職者としての 責任を果たす重要性を理解することがで きる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療 チームメンバーに適切に情報を提供する 重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性 と倫理観を もつ看護専 門職者	①	感性を高める科目	△	修得の機会 はあるが、単位 認定に関係な い
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊か な看護専門 職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤と なる知識を示 せることが単 位認定の要件 である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		

3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	該当しない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探究し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					

(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。 (2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	－	該当しない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 看護実践を支える科目

科 目 名： 成人看護人Ⅱ

(英語名称： Adult NursingⅡ)

【担当教員】 井上 水絵、横山 郁美、他

【開講年次】 2年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間

【概要】

成人期にある慢性疾患を持つ対象の特徴を踏まえ、個人の健康レベルに応じた健康の維持増進、健康障害からの回復に必要な基礎知識、特徴、対象・対象の家族への看護援助方法を学ぶ。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目である。

【学習目標】

(一般目標)

長期的な経過をたどる慢性疾患を抱える対象の健康障害と看護援助方法について学び習得することができる。

(行動目標)

1. 慢性的な健康障害について理解し、長期的な経過の中で慢性疾患を持つ人とその家族におよぼす身体的・心理的・社会的影響について説明することができる。
2. 慢性疾患を持つ人とその家族のセルフケアが生活に与える影響について説明することができる。
3. 慢性疾患を持つ人とその家族のセルフケア能力を向上させる看護実践および、必要な支援について説明することができる。

【テキスト】

鈴木久美, 他編集：成人看護学慢性期看護 NiCE 成人看護学 改訂第4版. 2023 年

【成績評価方法】

出席日数は3分の2以上を満たし、課題、試験により総合的に判断する

【その他（メッセージ等）】

慢性疾患の多くは、中・長期的に療養行動・症状マネジメントを行っていくことが

重要です。病気とともに生き、生活していく対象とその家族にとって、日常生活の中に療養行動を組み込みながら、その人らしい生活・人生を送るとは、どういうことなのか、また、そのことを支援していく援助方法について学習します。

*講義内容・予定は変更することがあります

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第 1, 2 回 4 月 3 日	がん患者への看護 1	症状マネジメントおよび緩和ケアが必要な人への看護、症状マネジメント、緩和ケアに関するチーム医療の実際
第 3-5 回 4 月 4 日	循環機能障害をもつ人への看護	慢性心不全患者の看護、ペースメーカー、症状コントロール、生活指導とセルフケア、心臓リハビリテーション
第 6, 7 回 4 月 17 日	がん患者への看護 2	放射線療法、放射線療法中の患者の特徴、症状コントロール、セルフケア
第 8, 9 回 4 月 17 日	RI 治療を行う人への看護	放射線薬剤を内服して悪性腫瘍の治療を行う人への看護
第 10-12 回 4 月 24 日	血液疾患を持つ人の看護	がん化学療法、外来化学療法、症状コントロール、セルフケア 血液疾患を有する患者の身体的、心理・社会的特徴および看護
第 13 回 5 月 1 日	皮膚疾患を持つ人の看護	皮膚疾患患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護
第 14, 15 回 5 月 1 日	免疫機能障害を持つ人の看護	全身性エリテマトーデス患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護
第 16 回 5 月 8 日	がん体験者の語り	がん体験者の語り
第 17, 18 回 5 月 8 日	感覚器障害を持つ人の看護	感覚器疾患を有する患者の身体的、心理・社会的特徴および看護
第 19-21 回 5 月 15 日	代謝機能障害を持つ人の看護	糖尿病患者の身体的、心理・社会的特徴および看護、インスリン療法を受ける人への看護
第 22-24 回 5 月 22 日	消化機能障害を持つ人の看護	消化器疾患患者の身体的、心理・社会的特徴および看護
第 25-27 回 5 月 29 日	呼吸器障害を持つ人の看護	慢性呼吸不全患者の身体的、心理・社会的特徴及び看護（気管支喘息、COPD）、肺がん患者の

		身体的、心理・社会的特徴及び看護、禁煙指導
第 28-30 回 6 月 5 日	脳神経機能障害を持つ への看護	脳・脳神経疾患、パーキンソン病、薬物療法、症状 コントロール、リハビリテーション、医療連携、コミュニケーション障 害、身体機能障害

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	同上
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	同上
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、ス

		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		キルを示せることが単位認定の要件である
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	◎	看護の一部として実践できることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					

看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づい	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	基盤となる知識を示せるこ

た看護の実 践	②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。	とが単位認定 の要件である
	③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。	
	④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。	
	⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。	
	⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。	
	⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。	
	⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。	

区 分 名： 看護実践を支える科目

科 目 名： 小児看護学Ⅰ

(英語名称： Nursing Care for Children)

【担当教員】 和田 久美子、古溝 陽子、鈴木 学爾、他

【開講年次】 2年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

新生児期から思春期にある対象者とその家族の特徴を理解し、生活の援助に必要な知識、技術を学習する。また、子どもとその家族が置かれている状況を踏まえて、各ライフステージにおける発達課題や健康上の課題について学習する。当科目は、看護師として実務経験のある教員が担当する。

【学習目標】

- 1) 新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期という成長発達の特徴について、身体的および心理・社会的視点から説明できる。
- 2) 新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期の特徴を健康と生活の視点から説明できる。
- 3) 子どもを取り巻く社会環境を説明できる。
- 4) 子どもの生活援助方法を説明できる。

【テキスト】

随時提示する。

【参考書】

随時提示する。

【成績評価方法】

課題 20%、試験 80%の配分で評価する。

【その他（メッセージ等）】

「心理学」、「母性看護学」等で学んだ、子どもに関する知識について復習して臨んで下さい。

【授業内容(学習項目)】

回	項目	内容（キーワード等）
第1回	オリエンテーション 小児看護の理念	子どもの健康、小児看護の役割、 子どもの権利、 子どものヘルスプロモーション
第2回	子どもと家族の環境	子どもを取り巻く社会
第3回	子どもの成長発達	成長発達に影響する要因、 成長発達の評価
第4回	形態・機能的側面の成長発達	身長・体重・頭囲・胸囲・歯
第5回	精神・運動的側面の成長発達	愛着、認知、粗大運動、微細運動
第6回	心理・社会的側面の成長発達	自我・社会性の発達 自己同一性、対人関係の変化
第7回	新生児・乳児期の生活	食事、睡眠、排泄、清潔、活動、 コミュニケーション、健康上の課題
第8回	新生児・乳児期の生活	
第9回	幼児期の生活	食事、睡眠、排泄、清潔、活動、 コミュニケーション、健康上の課題
第10回	幼児期の生活	
第11回	学童期・思春期の生活	食事、睡眠、排泄、清潔、活動、 コミュニケーション、健康上の課題
第12回	学童期・思春期の生活	
第13回	【演習】子どもの成長発達と生活	子どもの成長発達
第14回		
第15回		

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)		①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示

	習慣・服装・品位/礼儀	②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		せることが単位認定の要件である
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュ	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		

	ニケーショ ン	③	看護専門職者としてふさわしいコミュニ ケーションスキルを身につけ、実践でき る。		位認定の要件 である
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意 思決定を支援することができる。		
2)	チームでの コミュニケ ーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護 の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	習得の機会 はあるが、単位 認定に関係な い
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意 義と看護専門職者が果たす役割について 理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信 頼、誠実さを示し、看護専門職者としての 責任を果たす重要性を理解することがで きる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療 チームメンバーに適切に情報を提供する 重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を 説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性 と倫理観を もつ看護専 門職者	①	感性を高める科目	●	実践の基盤と なる知識を示 せることが単 位認定の要件 である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊か な看護専門 職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤と なる知識を示 せることが単
		②	人間の理解を深める科目		

		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		位認定の要件である
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探究し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。 (2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	△	習得の機会はあるが、単位認定に関係ない
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	習得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		

区 分 名： 看護実践を支える科目

科 目 名： 老年看護学Ⅰ

(英語名称： Gerontological Nursing Ⅰ)

【担当教員】 坂本 祐子、齋藤 史子、杉本 幸子

【開講年次】 2年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 15時間

【概要】

老年看護に必要な概念や理論を学ぶ。また、高齢者の特徴や生活機能を踏まえた基本的な看護の知識と技術について学ぶ。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目。

【学習目標】

- 1) 老年期の身体的・精神的・心理的・霊的側面における特徴を説明できる。
- 2) 加齢変化が生活機能へ及ぼす影響を説明できる。
- 3) 高齢者の生活機能を支える看護実践とその評価に必要な知識を説明できる。
- 4) 老年看護に活用できる理論や概念について理解する。

【テキスト】

1. 北川 公子、他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学 第10版、医学書院
2. 鳥羽 研二、他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論、第6版、医学書院

【参考書】

1. 山田 律子編：生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図 第4版、医学書院

【成績評価方法】

全講義数のうち3分の2以上出席した学生を対象に筆記試験を行う。

【その他（メッセージ等）】

老いを生きる高齢者を支える老年看護学では、高齢者とその家族を捉える視点を学びます。超高齢社会の現況や権利擁護、身体的・心理的・社会的側面の変化など

を踏まえ、老年看護の役割をしっかりと学び、3年次に履修する老年看護学Ⅱ、老年看護学実習へ繋げて行きましょう。

「老年看護学実習（3年生科目）」と並行開講のため教員への質問は、メールを活用してください（ryoyo@fmu.ac.jp）。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	ライフサイクルにおける「老年期」	ライフサイクル、老年期、加齢と老化 発達課題
第2回	厚生統計からみる超高齢社会	人口動態、家族構成、健康、暮らし
第3回	高齢社会における保健医療福祉の動向①	社会保障制度の変遷、福祉関係八法
第4回	高齢社会における保健医療福祉の動向②	介護保険
第5回	高齢者の権利擁護①	高齢者虐待
第6回	高齢者の権利擁護②	身体拘束（フィジカルロック）、 ドラックロック、スピーチロック
第7回	高齢者の権利擁護③	スティグマと差別（セクシリティを含）、 権利擁護のための制度、成年後見制度
第8回	老年看護の役割	老年看護の成り立ち、役割と期待
第9回	老年看護における理論・概念の活用①	サクセスフル・エイジング ストレングスモデル
第10回	老年看護における理論・概念の活用②	コンフォート理論、エンパワーメント
第11回	高齢者のヘルスアセスメント①	加齢変化1
第12回	高齢者のヘルスアセスメント②	加齢変化2
第13回	高齢者のアセスメント枠組み	高齢者総合機能評価、生活機能評価 ライフヒストリー
第14回	高齢者に特徴的な健康問題①	老年症候群
第15回	高齢者に特徴的な健康問題②	フレイル、サルコペニア

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	—	修得の機会がない
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		

		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					

			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		

		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。	
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。	
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。	
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。	
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。	
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。	

区 分 名： 看護実践を支える科目

科 目 名： 精神看護学Ⅰ

(英語名称： Mental Health NursingⅠ)

【担当教員】 佐藤 利憲、田村 達弥、大川 貴子、馬場 香織

【開講年次】 2年次 【学 期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義 演習 【単 位 数】 2単位 【時 間 数】 30時間

【概要】

心の健康問題は誰にでも起こりうる問題である。このため、精神看護や精神保健に関する諸問題を疾患という枠組みでとらえるのではなく、生活者という視点から、日々の生活における心の健康の維持・増進、および心の健康問題の予防について、精神看護の役割と援助を学ぶ。当科目は、看護師として実務経験のある教員が担当する。

【学習目標】

1. 心の健康について理解する
2. 人間の心と行動の特徴を理解する
3. 各ライフサイクルの特徴と課題を理解する
4. 対象理解の基本的な考え方を理解する
5. 現代社会における心の健康の諸問題について多面的に理解する
6. 心の健康を維持・増進するための看護を理解する

【テキスト】

指定なし。

【参考書】

開講時に開示する。

【成績評価方法】

最終試験 60%

現代社会における心の健康の諸問題（グループワーク・発表）20%

精神保健に関するアプローチ（グループワーク・発表）20%

【その他（メッセージ等）】

心の健康問題は誰にでも起こりうる問題です。講義を通して様々な心の健康問題を多面的に理解し、精神看護の役割と援助をともに学んでいきましょう。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	オリエンテーション	
第2回	心の健康の概念 精神保健	心の健康・人間の心と行動の特徴
第3回	現代社会における心の健康の諸問題①	担当テーマを決定し、グループ毎に発表・意見交換に向けたワークを行う
第4回	現代社会における心の健康の諸問題②	担当テーマについて、グループ毎に発表・意見交換に向けたワークを行う
第5回	現代社会における心の健康の諸問題③	担当テーマについて、グループ毎に発表・意見交換に向けたワークを行う
第6回	現代社会における心の健康の諸問題④	担当テーマについて、グループ毎に発表・意見交換に向けたワークを行う
第7回	現代社会における心の健康の諸問題⑤	担当テーマについて、グループ毎に発表し、意見交換を行う
第8回	現代社会における心の健康の諸問題⑥	担当テーマについて、グループ毎に発表し、意見交換を行う
第9回	現代社会における心の健康の諸問題⑦	担当テーマについて、グループ毎に発表し、意見交換を行う
第10回	心の健康づくり①	対人理解と支援の基本
第11回	心の健康づくり②	対人理解と支援の基本
第12回	心の健康づくり③	対人理解と支援の基本
第13回	心の健康づくり④	アサーショントレーニング
第14回	心の健康づくり⑤	アサーショントレーニング
第15回	心の健康づくり⑥	アンガーマネジメント
第16回	心の健康づくり⑦	WRAP (Wellness Recovery Action Plan)
第17回	心の健康づくり⑧	WRAP (Wellness Recovery Action Plan)
第18回	精神保健に関するアプローチ①	担当テーマを決定し、グループ毎に健康教育・集団教育（模擬）の実施に向けたワークを行う
第19回	精神保健に関するアプローチ②	担当テーマについて、グループ毎に健康教育・集団教育（模擬）の実施に向けたワークを行う

第20回	精神保健に関する アプローチ③	担当テーマについて、グループ毎に健康教育・集団教育（模擬）の実施に向けたワークを行う
第21回	精神保健に関する アプローチ④	担当テーマについて、グループ毎に健康教育・集団教育（模擬）の実施に向けたワークを行う
第22回	精神保健に関する アプローチ⑤	担当テーマについて、グループ毎に健康教育・集団教育（模擬）の実施に向けたワークを行う
第23回	精神保健に関する アプローチ⑥	担当テーマについて、グループ毎に健康教育・集団教育（模擬）の実施に向けたワークを行う
第24回	精神保健に関する アプローチ⑦	担当テーマについて、グループ毎に健康教育・集団教育（模擬）の実施に向けたワークを行う
第25回	精神保健に関する アプローチ⑧	担当テーマについて、グループ毎に健康教育・集団教育（模擬）を行う
第26回	精神保健に関する アプローチ⑨	担当テーマについて、グループ毎に健康教育・集団教育（模擬）を行う
第27回	精神保健に関する アプローチ⑩	担当テーマについて、グループ毎に健康教育・集団教育（模擬）を行う
第28回	精神保健に関する アプローチ⑪	担当テーマについて、グループ毎に健康教育・集団教育（模擬）を行う
第29回	精神保健に関する アプローチ⑫	担当テーマについて、グループ毎に健康教育・集団教育（模擬）を行う
第30回	精神保健に関する アプローチ⑬	担当テーマについて、グループ毎に健康教育・集団教育（模擬）を行う

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		

2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣・スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、習慣

	とのコミュニケーション	②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		スキルを示せることが単位認定の要件である
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、習慣スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場に知識を応用することができることが単位認定の要件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)		①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場

	創造性豊かな看護専門職者	②	人間の理解を深める科目		に知識を応用することができることが単位認定の要件である
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○	模擬的な場で実践できることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		

		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		

区 分 名： 看護実践を支える科目
科 目 名： 公衆衛生看護学Ⅰ
(英語名称： Public Health NursingⅠ)

【担当教員】 高橋 香子、難波 貴代、阿久津 和子、鹿俣 律子、
高崎 千聡

【開講年次】 2年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 選択必修

【授業形態】 講義・演習 【単 位 数】 3単位 【時 間 数】 45時間

【概要】

地域社会で生活している個人・家族・集団・組織の人々の健康や生活の質の向上をめざすために、保健師活動で用いられる健康相談、健康教育、家庭訪問、健康診査及び保健指導等の基本的な対人支援技術について学習する。保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

【学習目標】

学習目標（一般）：

1. 基本的な対人支援技術の基礎となる理論やモデルを学ぶ
2. 保健師活動で用いられる基本的な対人支援技術について理解できる

学習目標（行動）：

1. 基本的な対人支援技術の基礎となる理論やモデルについて説明できる
2. 対人支援技術の活用方法、手順、留意点について説明できる
3. 演習のグループ活動では、他のメンバーと議論を行ない、協力して課題を達成することができる
4. 事前と事後の自己学習を行ない、主体的な態度で参加することができる

【テキスト】

標美奈子	：標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論	医学書院
中村裕美子	他：標準保健師講座2 公衆衛生看護技術	医学書院
中谷芳美	他：標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護技術	医学書院

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価方法】

出席状況・講義演習への参加態度（20％）、筆記試験（50％）、課題提出物（30％）による総合評価。

【その他（メッセージ等）】

対象にとってより質の高い生活を過ごせるために基本的な支援方法を習得しましょう。また、グループでの演習を取り入れておりますので、主体的に臨み、欠席することのないよう体調管理に留意しましょう。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第1回	コースオリエンテーション	コースオリエンテーション
第2回	公衆衛生看護活動における対人支援技術	ヘルスプロモーション、援助者の基本姿勢
第3～4回	公衆衛生看護活動における対人支援技術	健康相談・健康教育・家庭訪問・健康診査・保健指導の特徴
第5～6回	公衆衛生看護活動で用いる理論・モデル	プリシード・プロシードモデル、ヘルスベリーフモデル、自己効力感、変化のステージ理論
第7～8回	健康相談	健康相談の目的・方法・相談技術
第9～12回	健康相談の演習	ロールプレイ
第13～14回	家庭訪問	家庭訪問の目的・方法
第15～16回	家庭訪問	家庭訪問の技術、マナー、展開過程
第17～18回	家庭訪問の演習	模擬事例の情報整理、アセスメント
第19～21回	家庭訪問の演習	家庭訪問の実施①
第22～24回	家庭訪問の演習	家庭訪問の実施②
第25回	家庭訪問の演習	家庭訪問のプロセスと必要な技術
第26～27回	健康診査・保健指導	健康診査・保健指導の目的・方法
第28回	健康診査・保健指導	健康診査の展開過程
第29回	健康教育	健康教育の目的・方法
第30回	健康教育	健康教育のプロセス、媒体
第31回	健康教育の演習	演習の進め方、企画書の作成
第32回	健康教育の演習	企画書の作成
第33回	健康教育の演習	企画書の修正
第34～35回	健康教育の演習	シナリオ作成

第 36～39 回	健康教育の演習	健康教育の媒体作成
第 40～41 回	健康教育の演習	模擬健康教育
第 42 回	健康教育の演習	健康教育の評価
第 43～44 回	まとめ	保健師の活動で用いる基本的な対人支援技術
第 45 回	まとめ	まとめ

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム				科目達成レベル	
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	○	態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	○	〃
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	○	〃
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	〃
		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	△	修得の機会があるが、単位

		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		認定に関係ない
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		

4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践を支える科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	—	修得の機会がない
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					
1)	人々のニーズに基づい	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	○	模擬的な場で実践できるこ

	た看護の実 践	②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		とが単位認定の要件である
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探究し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	—	修得の機会がない

		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		

区 分 名： 看護の実践

科 目 名： 地域看護学実習

(英語名称： Community Health Nursing Practice)

【担当教員】 阿久津 和子、高橋 香子、難波 貴代、鹿俣 律子、
高崎 千聡

【開講年次】 2年次 【学 期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 実習 【単 位 数】 1単位 【時 間 数】 30時間

【概要】

地域看護学実習では、地域で生活する人々の健康問題や課題を把握し、その解決を図る保健師活動の実際やその意義について理解するために保健所を中心とした実習を行う。また、保健師活動の実際を理解し、その意義について考える。保健師として実務経験のある教員が担当する科目。

【学習目標】

1. 地域で生活する人々の健康問題や課題について理解する
2. 保健所（保健福祉事務所）や管内市町村における保健師活動の実際について理解する
3. 保健師活動の意義について理解する

【テキスト】

荒賀直子・後閑容子編：公衆衛生看護学.jp インターメディカル

【参考書】

特に指定せず。

【成績評価方法】

日々の学びの内容（35％）、実習態度（25％）、レポート（40％）による総合的評価。

【その他（メッセージ等）】

地域看護学Ⅰや地域看護学Ⅱの授業内容を関連づけながら学びましょう。実習施設によっては、宿泊する必要があります。

2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	◎	実践できることが単位認定の要件である
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	●	〃
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		
		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		

		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	—	修得の機会がない
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	—	修得の機会がない
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者	①	看護実践の応用となる科目	●	基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	看護の実践		
		③	看護を統合する科目		
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。					

1)	人々のニーズに基づいた看護の実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。					
(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。					
1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		

2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		